

鳶飛戾天。魚躍于淵。豈弟君子。遐不作人。

鳶とび飛んで天てんに戻り、魚うま淵ふちに躍をどる。豈がいてい弟くんしの君子、遐とほく人ひとを作なさざらんや。

鳥は空を飛ぶのが本来の性質であるし、魚は水の中に遊いで居るのが本来の性質である。それだから途中に之を遮るものがなければ、鳶は飛んで天の上の方まで行くし、魚は淵の中に躍つて、その所を得たことを喜んで居る。國もその通りであつて、君主に徳が有つて國がよく治つて居れば、人民は皆その所に安んじて、農業をする者は農業をするし、物を作る者はその技を勵むといふやうになつて行く。それは丁度鳥や魚が各々その所に安んじて居るのと同様である。これは皆君主の徳の然らしむる所であつて、『豈弟の君子』即ち人民を治めることを喜びとして居るところの君主は、『人を作す』——多勢の人を保護して、多勢の人が皆それぞれの業を勵み、それぐに人間としての勤めを果し得るやうに、これを教へ導いて下さるのである。さういふ王が出て周はだんぐと盛んになつて來た譯である。